講演会のお知らせ

医学系研究科・医学部国際交流室では東京大学医学部卒業生、現在ニューヨーク・コロンビア大学病院循環器内科助教授・指導医、肥大型心筋症センター研究主任の島田悠一先生をお招きして講演会を開催します。

テーマ：「米国で臨床と研究の二刀流を目指す～３０代で循環器内科専門医とNIH の大型研究助成を獲得し自分のラボを持つための戦略～」

第一部　米国における臨床留学と卒後臨床研修・専門医制度
第二部　米国で研究助成を獲得して主任研究者として独立し、研究室を立ち上げるまでの戦略

日時　９月８日金曜日　午後６時から８時
場所　鉄門記念講堂（本郷キャンパス 医学部教育研究棟 14 階）

【9月7日更新情報】
オンライン（Zoom）放送が決定しました。
https://columbiacuimc.zoom.us/j/97743542272?pwd=UmFnbEJpSzIvQlZJU2lQdDFMa1psZz09
Meeting ID: 977 4354 2272　Passcode: 252126

※事前登録は不要です。

本件に関するお問い合わせは国際交流室までご連絡ください。

医学系研究科・医学部国際交流室
oiaa@m.u-tokyo.ac.jp

2023 年 9 月 8 日午後 6 時～8 時開催 島田悠一先生講演会

抄　録

「米国で臨床と研究の二刀流を目指す～３０代で循環器内科専門医と NIH の大型研究助成を獲得し自分のラボを持つための戦略～」

海外医学留学には大きく分けて二つの形態があります。一つは臨床留学であり、もう一つは研究留学です。今回の講演では全体を第一部と第二部に分け、前半の第一部で米国における臨床留学と卒後臨床研修・専門医制度についてお話し、後半の第二部では米国で研究助成を獲得して主任研究者として独立し、研究室を立ち上げるまでの戦略についてお話いたします。

第一部の米国臨床留学に関する部分では、まず米国の卒後臨床研修制度の概略とその長所・短所をご紹介いたします。次に、臨床研修の質がどのように確保されているのかについて、ACGME（卒後医学教育認可評議会）という査察機関と主任研修医（チーフレジデント）、プログラムディレクターの役割を実例を交えてご説明いたします。さらに、初期研修・後期研修の実際、専門医資格取得の要件、指導医の生活、研修修了後の多様な進路（大学病院、一般病院、グループ・プラクティス、開業、国連、WHO、CDC、FDA、第三国への移住、など）に関して解説していきます。最後に、米国で臨床トレーニングを受けるための具体的な戦略（USMLE、マッチング、どのビザを選ぶべきか、初期研修を飛ばして後期研修から始める場合のメリットとデメリットについて等）に触れようと思います。

第二部では米国研究留学についてお話いたします。米国で研究を行うには第一部でお話する臨床医として渡米する場合に加えて大学院生（博士号取得前）、Postdoctoral Fellow（博士号取得後）などいくつかの方法があります。まずはそれぞれのメリットとデメリットについてご説明いたします。次に、米国での研究助成の仕組みと種類について解説いたします。米国で主任研究者として独立してラボを立ち上げるための必要十分条件は NIH の R01 研究助成（５年間で合計５億円程度）ですが、いきなり R01 研究助成に応募しても受かる確率は低く、大抵は研究者の登竜門とも言うべき K 研究助成（５年間で合計１億円程度）を獲得して論文を書き、主任研究者になるためのポテンシャルを NIH に認知してもらうという段階が必要になります。しかしながら、K 研究助成は（競争率の高い一つの例外を除いて）米国永住権か市民権がないと受け取ることができません。今回はこの問題をどう克服すればよいのかについて、いくつか選択肢を示しながらお話させていただきます。